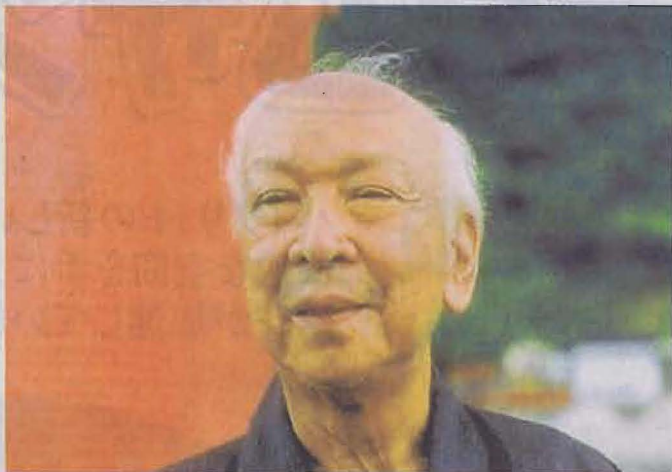


海をみつめるひいじいちゃん(大滝秀治)～映画「白い船」の一場面から～



価値観の転換期

映画「白い船」撮影から10年がたった。映画「白い船」はおかげさまで私にとっても紛れもなく映画監督としての行く末を決定づけてくれたエポック的な作品だ。菅野美穂さんが初主演してくれた映画「守ってあげたい」のキャンペーンの際、舞台となった塩津小学校と島根半島の沖合を航行する九越フェリー(当時)との交流の話を聞いたのがきっかけだった。

今は移動の時間を買うことが便利さのようになられており、舟運(しゅううん)は遅いイメージだが、実は船でしか運べないモノもたくさんあり、流通の主役はいまだに舟運だとフェリーの船長さんに教えていただき、必ずしも便利なモノ≠速いモノというわけではない、目先の情報に流されることで錯覚していることも多いことに気づ

錦織監督

映画の現場から



「白い船」で知った島根の豊かさ

●●13

かせていただいた。

昭和30年代生まれの私は、発展＝スピードアップであり、誤解を恐れずに言えば、お店に品物や人があふれることが豊かさだとたという高度経済成長時代に育った。もちろんそれを否定するわけではない。しかし、ふる里で取材をすればするほど、見聞きしたあらゆることを通して私の価値観は崩れていった。

2001年9月11日、私は松江にいた。白い船の撮影が終わり、ご協力いただいたしまね映画祭のスタッフと居酒屋で刻々と伝えられる衝撃的な映像をテレビで見ている。以来「世界の安全」が著しく脅かされている。「ミラクルバナナ」撮影で何度か米国に入国したが、指紋はおろか眼球までも撮られた。これが個人情報や人権に厳しいアメリカなのかと思うほどの大きな変化だ。もともと安全というイメージが強い日本も多くの神話が崩れ去り、必ずしも安全とは言いきれなくなった。

世界の成功者はまずコストをかけて安全安心な環境を手に入れる。極論を言えば、それだけ安全は安くはないということだ。全世界をくまなく歩いたわけではないが、豊かな生活とは、自然環境、とりわけきれいな水と空気があり、豊かな食生活があることであり、加えて安全だということが欠かせない条件だと思う。いくらお金持ちでも、いつ銃弾が飛んでくるか分からないところで生活していたら休まらないであろう。どんなに便利でも、添加物だらけの食べ物を食べたり飲んだりしていたら長生きできるかも疑わしくなる。

島根には大げさではなく、世界一の環境と安全があると思う。白い船の映画によって本当の豊かさに気づかされた10年前は、同時に島根の豊かさと魅力に気づいた瞬間でもあった。

(錦織良成・映画監督)

＝第2、4金曜掲載＝